

日本環境共生学会(JAHES)の新しい試みについて

2012年8月26日

会長 林良嗣

当学会はこの一年、日本環境共生学会本来の目的に立ち返ると共に、会員のメリットを大きく向上させる種々の新機軸を打ち出しました。それらは、以下のように纏められます；1) 学会誌「環境共生」の質の飛躍的向上、2) 総会・地域シンポ、学術大会の新企画、3) 会員サービス行き渡りの確認と新サービス開始、4) 事務局の改革。

1) 学会誌「環境共生」の質の飛躍的向上

- a) 「招待論文」の新設：環境共生の諸側面の権威による **State of the Arts** や時代の重要課題をとして書いて頂く
- b) 分野横断型の積極的採択：従来の学会では、既存分野を横断する新テーマは、「学術的」でないとして否定されてきたチャレンジングな試みを奨励し、益々困難となる環境、災害などの問題解決のための新しいアプローチを志す学術創成の先兵となる
- c) 従来の「自然科学」、「人文科学」など、環境を縦割りする査読分野区分を一新し、「学術創成・社会の課題」、「地球規模の課題」、「都市・地域の課題」の大分類の下に、別表に掲げる新しい課題区分を設定した。
<<http://www.jahes.jp/toukou.html>>
- d) 年2回の定期刊行の遵守

2) 総会・地域シンポ、学術大会の新企画

- a) 今日の重要課題と地域性を結びつけるテーマを掲げて、大学等の研究者と企業・行政・NPOなどに役立つ企画を展開する。
- b) 新企画により、本年度の学術大会では、環境共生にかかわる極めて広範な、しかも、どの分野出身の会員にも興味深いテーマの論文発表が実現した。
- c) 企画セッションでは、現在進行中のグローバル COE や地球環境推進費など、環境共生に係わる大型研究をパネル・ディスカッション方式で紹介し、当学会の学術大会に出れば、その年に進行している主要研究プログラムが把握出来る機会を提供できることとなった。

3) 会員サービス行き渡りの確認と新サービス開始

- a) 若手会員：学術大会とリンクして、秋の学術大会発表者が「環境共生」に投稿し採択されれば、年明けの1月発刊号に掲載が保証される。
- b) 若手会員：査読期間の大幅短縮を行い、投稿受付後4ヶ月以内に採否の通知が保証され、Dr取得や昇進のための審査付き論文の確保が確実となる。
- c) 団体会員：企業／行政の今日の実務課題に関する「チュートリアル」を創設し、通常のセッションよりも親密な場を設定し、詳細な質問に答えるサービスを開始。5月の地域シンポジウムでは、「災害時の企業BCP」、9月の学術大会では「スマートシティの構想づくりとビジネスモデル化」、団体会員メンバーは、地域シンポジウム、学術大会など学会主催行事への参加登録料無料化。

4) 事務局の改革

- a) 学会事務局経験者を迎えて、会員支援、学会諸規定、経理、ホームページ運用、委員会運営および大会準備・運営の支援などが充実できた。
- b) 「環境共生」に関しては学位を有する研究者の支援を受ける体制を整えた。
- c) 事務局員はパートタイムですが、事務局機能は飛躍的に向上した。会員の各種相談に乗っていただける。

備考1) 大会等

a) 学術大会（北九州市立大学）

「都市とグリーンイノベーション」を大会テーマに学術大会へ地元の特徴を入れた基調講演とパネル・ディスカッション企画＋スマートシティの実証実験視察企画など、次々と魅力を打ち出せました。研究者の優れた研究成果の発表と共に、研究と実務との接点の重要テーマを提供します。北九州大会は、発表80件、参加者は100名を大きく超える見込みです。団体会員の企業、自治体等の方々も、環境ビジネス／環境行政モデルを求めている参加が増えています。

学会賞の審査も充実し、北九州大会において、2012年度の論文賞、奨励賞、著述賞、環境活動賞、そして、大会発表に対して「研究発表大会学生発表賞」と「ポスター優秀発表賞」が授与される予定です。

会員の皆様、クオリティが格段に向上して有用な発表が増した学術大会に、是非とも参加下さい。また、会員継続を迷っておられる方々、新生JAHESのメリットを享受して下さい。

b) 総会・地域シンポジウム（北海道大学）

5月に北海道大学で開催した総会＋地域シンポジウムも、極めて up-to-date なテーマ「地域の自然災害と環境共生 -レジリエントな国土と社会-」を掲げて、これも地域を巻き込んで戴き、大成功を収め、優れたモデルに仕上がってきました(北九州学術大会直前に郵送される「環境共生」Vol21に掲載の萩原報告参照)。ここでも、北海道開発局、自治体、コンサルタントをはじめとする実務の方々の参加も多く得ました。

備考2) 学会誌

「環境共生」も美しい誌面になり、充実した年2冊を配本しています。投稿も飛躍的に増え、7月25日締め切りの特急券応募（この日までに投稿し、学術大会で発表すると、11月末日までに審査結果通知のサービス）だけで15編にも及びました。

今後は、「環境共生」掲載論文の引用が増えて行くでしょう。そして、これが学会の信用を高め、大会への参加者が増え、会員が増え、「環境共生」に論文が掲載されることがステータスとなって行って欲しいと願っています。すると、論文賞も competitive となり、受賞の価値も高まる、と期待しています。

ともかく、皆さんのお陰で、JAHES は大きく変わりました。是非、会員を継続して、研究／実務交流を展開されることを希望します。

備考3) 「環境共生」審査分野

A. 学術創成・社会の課題

A1 持続性・環境共生 A2 災害・レジリエンス A3 コミュニティ・教育

A4 環境経営・ガバナンス A5 環境と健康 A6 環境と経済 A7 環境評価 A8 途上国の環境問題

B. 地球規模の課題

B1 気候変動 B2 生物多様性・生態系 B3 水循環・水問題 B4 地球環境情報

C. 都市・地域の課題

C1 国土環境 C2 資源・エネルギー C3 物質循環・廃棄物 C4 農業・林業・グリーン産業

C5 緑地・里山・森林資源保全 C6 都市計画・経営 C7 交通